

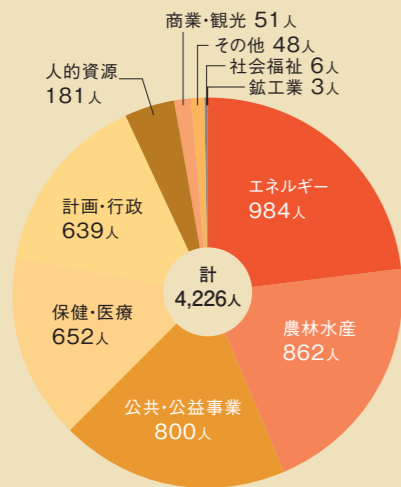
日本の復興支援

スペインの首都マドリッドで2003年10月に開催された「イラク復興支援国際会合(マドリッド会合)」で、日本はアメリカの200億ドルに次ぐ、最大50億ドルの復興支援を表明。緊急性の高いインフラ整備のための無償資金協力(15億ドル)では、医療機器やパトカー、救急車などを提供。さらに、円借款(35億ドル)により、電力、運輸、上下水道、石油、灌漑などのインフラ整備支援を全国各地で展開中だ(地図参照)。さらに、03~06年まで陸上自衛隊が、08年まで航空自衛隊が現地に派遣され、給水、医療、教育などの分野で人道支援を行った。

またハード面の協力だけでなく、国際社会に先立ち、ソフト面の人材育成にも積極的に取り組んできた。具体的には、近隣国のヨルダンやエジプト、日本などを舞台としたJICAの研修。行政、エネルギー、保健医療など分野も多岐にわたり、研修員の数は、03年からの8年間で4,226人に及んでいる(円グラフ参照)。

さらにイラク国内での支援を一層効率的に進めるべく、JICAは09年7月にクルド自治区のエルビルに拠点を構えた。そして2011年8月には、治安の改善を受け首都バグダッドにJICA事務所を開設。イラクの自立発展に向けて、当初の35億ドルに続く円借款事業の推進、JICA専門家を直接現場に派遣する技術協力プロジェクトの開始など、さらなる支援の多角化に乗り出す方針だ。

■イラク向けのJICAの研修(2003~2010年度:受け入れ人数)



イラク DATA



首都：バグダッド
面積：約43.74万km²(日本の約1.2倍)
人口：約3,230万人(2010年:世界銀行)
言語：アラビア語、クルド語など
宗教：イスラム教(スンニ派、シーア派)、キリスト教など
1人当たりの国民総所得(GNI)：2,320ドル(2010年:世界銀行)
通貨：イラク・ディナール(IQD) 1USD=1,170IQD(2011年9月)

WHAT'S IRAQ?

イラクってどんな国?

古代文明、発祥の地

人類最古の文明として知られるメソポタミア文明。その舞台となったのが、現在のイラクがある場所だ。世界有数の肥沃な農業地帯としても知られ、人々はチグリス・ユーフラテス川の水の恵みを受けて農業を営んでいた。

イスラム帝国、オスマン帝国、イギリス帝国の時代を経て、イラク王国として1932年に独立。58年に共和国となったが、79年に就任したサダム・フセイン大統領の統治の下、イラン・イラク戦争(80~88年)、クウェート侵攻に端を発した湾岸戦争(90~91年)が立て続けに勃発し、経済制裁により国際社会から隔離されることに。イラク戦争(03年)を最後に、ようやく20年以上にわたる戦争は終結した。

民族構成は実に多様で、アラブ人が約8割、クルド人が約2割、その他、トルクメン人、アッシリア人が暮らしている。北部地域はクルド人の自治が認められ、クルド自治政府が設置されている。また宗教に関しては、イスラム教スンニ派が約2割、イスラム教シーア派が約6割を占めている。



バグダッドから望むチグリス川。イラクの発展の原点だ

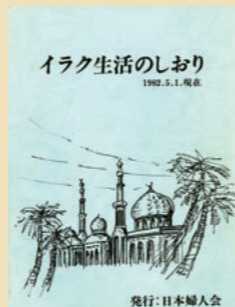
知られざる日本とのつながり

日本では戦争のイメージがいまだ強く、治安への懸念などから、イラク国内に拠点を置いて活動する日本人のほとんどがJICAや日本大使館、NGOなど国際協力関係者だ。

しかし1970~80年代には、首都バグダッドを中心にイラク全土で約1万人の日本人が暮らしていたといわれるから驚きだ。その大半は、日本企業の社員と家族。当時、首都の日本人学校の生徒は約100人にも及び、日本人会や日本婦人会ができるほど。イラクの生活習慣や生活物資の調達方法、観光名所などが書かれた「生活のしおり」も作成されていた。その後、度重なる戦争によ

り日本企業は撤退してしまっただが、かつて導入された日本製のプラントなどは戦禍を逃れて稼働し続けているものも多い。また戦争中に維持管理が十分にできなくても日本製のプラントは壊れなかったことから、いまだ日本の技術力や日本人に対する信頼は絶大だ。

このような背景からイラク人の親日感情は強く、東日本大震災でも義援金1,000万ドルの支援に合わせて、イラク政府は石油購入権を優先的に日本企業に売却したいという意向を表明。各地でも追悼セレモニーやチャリティーコンサートが開かれ、国を挙げて日本の復興を願うエールを送っている。



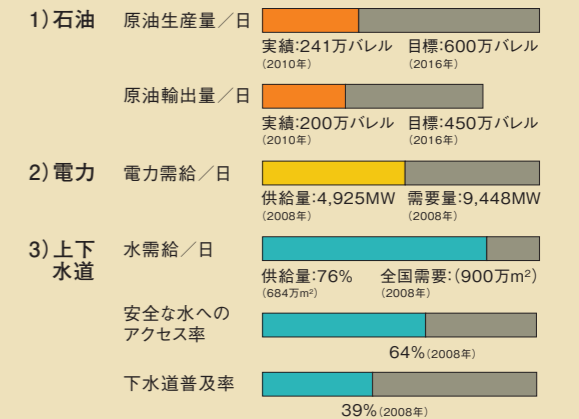
1982年に作成された「イラク生活のしおり」

未知の可能性

イラクは2003年から復興への道を歩み始めた。しかし長年の戦争の影響でインフラの破壊・老朽化が著しく、約3,000万人もの国民の生活、国の発展の大きな妨げとなっている。実際に首都でさえも、停電や断水がいまだ頻繁に発生しているほどだ。また、イラク戦争後も日常的なテロ発生により民間人の犠牲者が後を絶たなかったが、07年後半から警察や軍などの治安部隊の増強が功を奏し、治安の改善が大幅に進んでいる。

そんな中、この国の持続的発展のカギとして注目されているのが「原油」だ。イラクは国内総生産(GDP)の8割以上、国家歳入の9割以上を石油セクターに依存。原油埋蔵量は未確認の原油も含めると世界でもトップクラスの規模だともいわれ、可能性は未知数だ。日本をはじめ世界各国が今、膨大なインフラ整備のニーズやガスも含めた天然資源に注目し、官民を挙げてイラクでのビジネスに積極的に乗り出している。

■膨大なインフラ需要



出典:IEA/イラク政府